

神の声を聞こう

へブライ人への手紙三章7〜19節

今日、あなたがたが神の声を聞くなら／荒れ野で試練を受け
た頃／神に背いた時のように／心をかたくなにしてはならな
い。(7、8)

3章から4章にかけて、「今日、あなたがたが神の声を聞くなら……心をかたくなにしてはならない」という言葉が3回も繰り返されています。神の言葉が語られている「今日」という時を大切にしてほしいと著者は訴えます。人はいつも、神から与えられている今日という決断の時を先延ばししようとするからです。著者は荒野を旅したイスラエルの民の失敗を取り上げながら、今ここで神の声に聴き従うかどうか、その後の祝福がかかっていることを伝えます。信仰は常に、今ここでどう生きるかが問われているのです。キリスト者にとって最大の危機は、み言葉や牧師の説教を神の声として聞けなくなってしまうことです。著者は自分が書いたこの手紙を、神の声として聞いてほしいと願っているのです。私たちも心を開いて、今日、神の声を聞こうではありませんか。